

福祉の ひろば

目次

- みんなで「かだる」地域の福祉 2
- こんな取り組みをしています！
・ ジョイ（弘前市） 5
・ 瑞光園（八戸市） 5
- おらほの社協（尾上町） 6
- 私から一言（島康子さん） 6
- 福祉やっちゅう？ 7
- ソボクな疑問 7
- 県社協から 8

2002.4.1

No.4

テーマ みんなで「かだる」地域の福祉 「市町村社協職員研修会」で大いに「かだる」

2月27日、社会福祉協議会の職員が一同に会し、地域福祉の課題とその推進方策を探るべく、研修・討議いたしました。討議の中では、地域福祉の推進役として、社会福祉協議会の役割がますます高まる中、住み慣れた地域で共に支え合う地域福祉について大いに「かだり」しました。



真剣な表情で「かだる」名川町社協の松井さん



常盤村社協の成田さん(右)の熱い「かだり」にうなづく
青森市社協の倉内さん(左)



なごやかに「かだる」
金木町社協の小松さん(右)と
車力村社協の千田さん(左)



討議の内容を発表する
三戸町社協の米田さん



七戸町社協の沼端さんも熱く「かだる」



青森市社協の関さん(右)と中里町社協の長利さん(左)も
大いに「かだる」

みんなので「かだる」地域の福祉

自分の住む地域をよくしようと、さまざまな人が地域についてかだり(語り)、かだって(参加して)います。そんな地域福祉にかだっているヨコハマグローバル21代表の柏谷さんを司会に、今別町社会福祉協議会の田中さん、NPO法人サンネット青森代表根本さん、主任児童委員の大湯さんに、活動内容や思いを大いにかだってもらいました。

いろんな人を

巻き込んで

柏谷：「私自身は、「どうかしなくては」とか、地場のものを活用していくことを通して、地域の人間が地域の良さを直視するということがあると思って、活動してきてるんですが、それぞれどんな思いで活動されているんですか。」

田中：「少ない予算でいかに効果的なことができるかということを考えると、人の力ではないかなと思ってます。それで、地域の人の呼びかけて、活動を進めています。全部の集落に協力を配置して、訪問や見守りの活動を通してまちづくりしようとしています。」

大湯：「PTAの活動が長くて、十才離れた子どもが二人いるんですが、子どもの年が離れていた分、よその子ども自分の子どもと同じように見えるようになりましてね。その頃、子どもたちが、学校帰りにうちに集まるよう

になって、子ども会の活動など、子どもがどんどん集まっていた頃に、主任児童委員の制度ができて、子どもがいるところに私の姿があるということ、主任児童委員を引き受けたんです。子どもたちと接して、その親を変えなければだめだと思いましたね。子育てをしている親たちと一緒に活動していきたいと思っています。」

柏谷：「子育てに限らず、経済的なことを優先させてきたんですよね。根本」

根本：「これまで小規模作業所などの立ち上げを経験していたのですが、NPO法人というスタイルは、新しい視点を切り拓いてくれました。商店街の人など、地域を一生懸命考えている人が、福祉の世界だけでなく、たくさんいて、そういう人たちと手をつなぎ、まちの中で生きる視点を得たことが新しいインパクトでした。みんなで面白い店を開いたという感じです。」

柏谷：「福祉だけでなく、町内会とか、人のために何かやろう、まちの中で生きていこうという人がいるんですよ。」

関わり合って

地域で生きていく

根本：「私は、行政の福祉畑にいて、人と向き合う目線のあり様に疑問を感じて、思い立って仕事をやめたんですが、その頃は、ずっと人のために仕事をして、自分勝手に生きてみたいと思ってたんです。ところが、今まで人を応援してあげてると思っていたのが、その人たちに支えられて生きていたんだということに気づかされて、むしろそういう人たちと一緒に目線ができることをやりたいと考えるようになりました。」

学校もそうですが、「積極的に、前向きに、前進前進」というけれども、困つてるときに手助けを求めるとか、自分が大変だということを話すことができにくいですね。お互いに迷惑をかけないで暮らすという世の中ですが、お互いに迷惑を掛け合いますよと言いたいですね。お互い様というか、上手に迷惑をかける



司会 **柏谷 弘陽**

YOKOHAMAグローバル21代表
NPO法人 エッグ代表
下北半島活性化研究会顧問

「住んでいる住民の意識以上にはその地域は良くならない」という思いから、「参加」をキーワードに地域づくり活動を実施。地域づくりは人づくり。人づくりは心づくり。上北郡横浜町在住。家族は妻と子ども3人。

ことができるような仕組みになると、楽に暮らせるのではないかなと思います。正直に言えば、助けられる人がいるので、困っていることを伝えることができると思います。柏谷：「今まで関わりをわずらわしいと考えてきた社会があつて、この社会全体のスピードに乗らないと、関わりを持つてはいけないという世の中だったと思うんです。関わり合い方がわからない人も多いと思いま

すが、関わり方、参加、自分の周りからの働きかけなどをもう一度大事にしたいですね。

大湯：小学校で、学区外からの障害児の送り迎えをするお母さんたちがぼつんと待っていて、話し掛けられないし、向こうも遠慮しているし、どうにか関わりたいと考えて、学校に行くたびに声かけて、分かり合えるようになったんです。そのお母さんを役員にして、障害児を持つ親との座談会を開催したんですが、最初三十人くらいから始まったのが、百人くらいにまで広がったんです。知らないのであれば、自分の方から関わっていけば、案外入っていきけるかなと思います。


伝えていかなければ

いけない

柏谷：地域、学校、家庭の連携が、生涯学習時代を迎えて、よく言われていますが、子どもたちをどう育てていくのかということが地域の問題として捉えられていますね。

大湯：地域で育て、発信していくときに、人工的にでもお節介おばさんを作らなければだめだと思います。福祉にこだわると、何かやらなくちゃ、どうにかしなくちゃという人が多くなってしまふ。地域のみんなで、お節介おばさんを作りましょう。

柏谷：高校生が電車の中で、スカートのまま床に座っているのを見る




ねもと あや子
NPO法人 SAN Net青森代表

横浜市にて18年半福祉事務所のケースワーカーとして勤務。地域の中で精神障害当事者に寄り添った視点から支援活動したいと考え、夫、次男とともに、郷里の青森市に30年ぶりのUターン。NPOSANNet青森を3年前に夫と共に立ち上げる。

と、その場で注意した方がいいたろうけど、愕然としすぎちゃって声も出ないですね。青森では年一回ねぶたまつりにカラスが出てきますが、私はいつも、カラスは必ずカラスの巣から出てくるんですよと言っています。巣はどこにあるのか。それぞれ的心とか家庭とか。みんなの問題として考えていくことが大事なんです。

大湯：弘前はねぶたが町会単位です。で、ねぶたに参加するために、髪を黒く戻す子などもあるくらい(笑い)町会のような身近な人がどれだけ目を向けるかということが大事なんです。

柏谷：お節介おばさんも、ワイドショーだけに教育されたお節介おばさんじゃだめですよ。今の親の世代も、学びが足りないですね。強制で



たなか そういちろう
田中 総一郎
今別町社会福祉協議会
地域福祉活動コーディネーター


中学校教諭を目指したが断念、一転商社マンに憧れ民間企業に就職。地域福祉ほのぼのの交流事業地域福祉推進員として入局。以後ふれあいのまちづくり事業担当者となる。
浪岡町在住。家族は妻、長男の核家族。

はなくて、一人ひとりが思っていて行動する時代ですから、社会活動を重要なポジションとして、体験することが重要でしょうね。

親を教育するということはよく言われますが、私たちが社会的活動をする上で、いろんな切り口があるようにですね。

田中：学校と関わって活動をしていると、何をやっているんだらうと保護者の方も見に来られます。だんだん巻き込んでいくんです。

柏谷：私たちが、社会の決まりとか社会規範がなぜあるのかということとを教えることも大事です。思いやりの心が自然に出てくるとか、そういうことでこの社会が成り立っているということとを教えていくということ、父や母、先人先輩がどのように生きてきたかを学ぶということが大



おおゆ えつこ
大湯 恵津子
主任児童委員
市児童専門副委員長
健全育成推進員

長年のPTA活動や子ども会育成員としても子どもたちに関わり、社会情勢を踏まえながら、子どもたちや子育てしている入たちに関わっていきたい。
弘前市在住。夫と次女の3人暮らし。

事であると思います。

それぞれを尊重して

暮らす地域社会へ

根本：家族は多種多様になっているんです。一つの切り口だけで捉えないで、いろんな問題を持つている家族がたくさんいて、その人たちの立場にたつて、解決したり、支援していかないと難しいです。子を責めたり、親を責めたりするのではなくて、広い地域の仕組みを作っていくかなければいけないと思います。声かけて、話をきいてくれる人が地域にたくさんいればいいなと思います。

柏谷：そういう仕組みづくりと、関わりを大事にしていくムードが大

田中・十人十色で、人によって捉え方が違って、一人ひとりニーズが違う中で、それにいかに合わせられるかということが、地域の中で大事ですね。

柏谷・これまででは、経済を重要視していたが、もっと大事なものがあつたことを発見した方がいい。これからはもつと競争社会になっていって、勝ち組と負け組ができると、本当に大事なものが見えなくなるのが一番困ります。「経済は大変だけども、あつたかいものがある」とか、「福祉」という言葉にこだわらないことも大事ではないかな。

根本・社会的な意味で、新しい価値観が必要だと思えます。そうでなければ、負け組に入った人はお先真っ暗で、希望もないんだというふうな、二分した考えでは生きていけないですよ。人間はあるときは勝つても負けるときもあるし、循環していたり、家族の中には学校に行けない子がいたりとか、それぞれ、多様な生き方もあるし、単純に勝ち負けという風に決められないんだということ、みんなが理解して、もう一つ別な生き方を切り拓いていくことが必要だと思えます。



参加してこそ地域福祉

田中・学校の福祉体験学習でも、子どもたちは、いろんな体験をしてみたいと言っています。でも、体験をするだけでは、「高齢者や障害者は大変だな」という考え方が出てこない。それを、「私たちが何ができるか」ということまで、転換させていくことが大事なんだと思います。地域住民も、「私たちにこういう問題がある。それでは何ができるのか」と思える仕掛けを社協ができればいいなと思っています。「ふくしのまちづくり」がスローガンだけになってしまっていて、具現化していくためには、住民自身がどうしたらいいのかという、起爆剤として何をもってくるかということを考えますね。



柏谷・どうやってたら暮らしやすくなるかという視点でしょうね。ものが育つところというのは、「明るいところ、暖かいところ、やわらかいところ」だそうです。その実現に、私たちの何が足りなくて、何がいいのかを絶えず、見ていかななくてはならないと思うんです。今までは、その尺度を人まかせにしてきたと思っています。

自分自身が動くことによつて、気づいていくことがあるんです。みんなが動けば、帰ってくるものが社会全体に大きいと思えます。活動を特定の人だけでなく、できると

きができる人がやっていくという時代ですよ。

田中・ハード面ばかり目につきますが、人との関わりだとか、ソフト部分の開発が進むといいなと思えますね。

大湯・福祉施設でも誰でもいける場所とか、学校も開放するとか、みんなの生活のおいするところを作ってほしいなと思えますね。

根本・いつも与えられるばかりでなくて、自分の生活を自分で作っていくことができるんだ。自分が主人公になれるんだ。このことを社会全体がどう応援できるかが大きいですよ。まちの中では、いろいろな人はいないのです。

柏谷・私は「撥善提心莊嚴国土」(※注：善い心、菩提心を発すること、国土が莊嚴になるの意)ということで、国土が活動の目標なんです。どんな人でも人様の幸せを願っていると思うんです。そのことを表に出して、出し惜しみをしやらない。本当に一人ひとりがやらないといけない時代だから、遠慮なく一人を思う気持ちを出しましょう。家が大きいから幸せなんじゃなくて、余裕がある人がやるのがボランティアなんじゃなくて、ある人もない人もやんなくちやいないという気持ちをどんどん出しましょう。そうすると遠慮する人はそんなにいないと思うんです。積極的なかかわりを大事にする社会、それが地域福祉社会では求められるんだと思えますよ。

紹介

弘前市

ロービジョン・パソコンサポートジョイ

★ロービジョン者って？

ロービジョン者とは、残存視力があるものの、目の病気により視力が低下し、日常生活に支障をきたしている視覚障害者をさします。

★ジョイはどんなことをするの？

ロービジョン者は視覚が残っているので、全く見えないわけではありません。

ジョイはロービジョン者自身の必要から生まれたパソコンサポートグループです。

「パソコンの文字が小さくで見づらい」「カーソルが追えない」「音声ソフトの使い方がわからない」など、ロービジョン者特有の問題を一緒に考えながら、一人では躊躇してしまうパソコン練習をみんなでサポートしていきます。

★サポーター募集中！

実際のサポートは月一回。医学部の学生やIT講習会卒業の主婦、パソコン



パソコン練習をサポート

おたくの会社員など、腕に覚えのある人もない人も、クラブ活動のノリで毎回集まり、みんなでワイワイガヤガヤやっていきます。

ジョイ事務局

TEL 0172-34-3703 Eメール joy2001@crest.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~joy2001>

こんな取り組みをしています！

施設紹介

八戸市

特別養護老人ホーム 瑞光園

八戸市大字大久保字大山32の1 電話 0178-25-0101



★喜びを感じ合えるボランティア活動を

「ボランティアが喜びを感じることが出来るメニューをどれだけ揃えられるかが鍵です」と語る岩淵園長。生活相談員が窓口となり、ボランティアのしたいことと、施設でできることをコーディネートしている。「ボランティア活動の意義や価値を感じられる人は長く続けたいけるようです」最近では、個人で活動する人が増えてきているという。「特に1対1で話を聞くボランティアは、大きな喜びを与えています」と聴き役ボランティアの活躍に感謝しながら、「その人を別評価したりするのはなく、じつと話を聴いて受けとめてあげる姿勢が大事だと思います」と話す。

～頼れる存在をめざし、出前相談～



★地域の頼れる存在として
「ボランティアはお互いの人間関係の

幅を広げている」と活動の意味を分析する岩淵園長は、「配食サービスのグループに栄養士を派遣したりと、活動を支援してきたほか、近くの小中学校からの体験学習も積極的に受け入れている。在宅介護支援センターでは、地域の民生委員の定例会には必ず顔を出し、公民館等の行事には出前相談を実施している。十二月に設置した評議員会のメンバーも、民生委員や地区社協会長、老人クラブ会長である。

「地域との連携を深めるだけでなく、地域で困ったことがあったら、すぐに頼られる存在でありたいのです」

★市民活動への期待

二十数年前に福祉調査を実施してから地域福祉への関心が強まったという岩淵園長は、八戸市社協やNPO法人の理事を務めるほか、数多くの市民団体に活動している。「こういう生き方をしたという強い思いをもって活動している人はとても輝いています」と市民活動の魅力をお話しながら、「自分たちの福祉課題を自分たちが共に力を合わせて、取り組む場として、地区社協の活動を活発にしたいですね」と一市民としての夢を語った。

おらほの社協



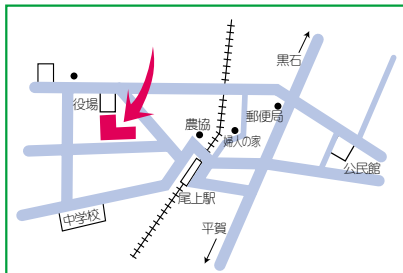
尾上町社協では、町会に福祉部を組織したり、小地域での住民参加活動を活発に行っています。

■住民主体の取り組みへ

地域のあるべき姿を「自分のことを気にかけてくれる人がいる。近くに行きやすい場所がある。いつでも気軽に相談できる人や場所がある。同世代や異世代とふれあう機会がある」と語るのは白戸事務局長。「我々の地域の問題は、我々みんなの協力で解決していくという姿勢、



町会福祉部の様子



〒036-0242
青森県南津軽郡尾上町大字猿賀
字南田96-3
電話 0172-57-5311 (代)

取り組みができることが、住民自治、住民主体につながるっていくとおもうのです」と住民主体の取り組みの重要性を話す。

■町会「福祉部」と社協の役割

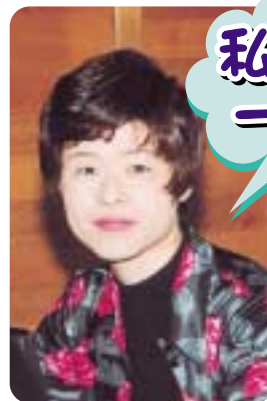
平成六年から、数ヶ所づつ町会に「福祉部」を組織し、十五町会のうち、これまで十二町会で、研修会や施設との交流、クリーン運動など、それぞれ独自の活動を進めている。こうした主体的な活動を支えるため、「必要な情報を提供したり、社会資源の活用を支援しているほか、研修会等を開催して住民の学習機会を確保し、各町会福祉部の連携を図ったり、関係機関との連絡調整等ネットワークを広げています。具体的総合的にコーディネートするのが社協の重要な役割です」と話す。

■福祉コミュニティへ

「いつでも、誰でも、必要な時に必要なサービスを受けられる体制、基盤づくりと、小地域で行われる住民参加型活動とが上手く機能して地域福祉の重層化が図られることで、我々の目指す福祉コミュニティの形成につながるのではと思います」

元気を出すんだ、わげものよ!

私から一言



あおぞら組 島 康子さん

あおぞら組は、大間の有志で結成された「町おこしゲリラ」集団。大間がドラマ「私の青空」の舞台に決まったことをきっかけに、自分たちでもなんかしようーやらすにはいられない!という気持ちで燃え上がった仲間たちです。組員は二十代〜三十代の十二名。理屈こねる前にやってみようがモットー。
・フェリー客への大漁旗ふりふりウエルカム活動
・「私の青空」そっくりさんを探せ!

- ・ライブカメラの前でゴミ拾い大作戦
- ・おこっぺイモくんヌーボー全国同時試食会
- ・ヘンな大間Tシャツ増殖計画
- などなど。

インターネットも活用しながら、こんなさまざまなゲリラ活動で、町の人々を笑わせたり、驚かせたり、ついでに一緒に巻き込んだりしているんです。

「おめど、次なにやるのさ?」ジジヤババまでが、おもしろがって聞いてきてくれる。若い奴らが、なにやら元気にやっている。その姿を精一杯発信していくことが、地域を元気にしていくんだと感じています。

第4条 地域福祉の推進

地域住民は、地域福祉の推進に努めなければならない。

地域福祉を推進するのは、福祉関係者だけの義務ではありません。

地域住民が地域福祉の推進に努めなければいけないことが、社会福祉法第4条に示されています。

社会福祉法

あおぞら組本部 島木材工業内 0175-37-2071 saihoku@infoamori.ne.jp
ホームページ「なまなま大間通信」<http://www.jomon.ne.jp/~namanama/>

リポクな疑問コーナー

Q 社協ってなに？

A 「社協」とは、社会福祉協議会の通称で、民間の福祉事業を実施する団体です。その組織は、県内全ての市町村に組織されているほか、都道府県域、全国域に組織され、それぞれが独立した法人格をもち、地域住民や各種団体、行政機関等と連携しながら地域福祉推進の中核的役割を担っています。

その性格は、①地域における住民組織と公私の社会福祉事業関係者等により構成され、②住民主体の理念に基づき、地域の福祉課題の解決に取組み、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現をめざし、③住民の福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整および事業の企画・実施などを行う団体であります。

①では、町内会、協同組合、企業、地域団体、福祉団体、ボランティア、民生委員、福祉や保健等の行政機関、教育委員会等、それぞれの地域の実情により構成されています。②と③では、福祉座談会、相談事業、地域福祉権利擁護事業、各種在宅福祉サービス、福祉施設の開設、ふれあいサロンの開設、ほのぼの交流事業、ボランティア育成など、地域のニーズに基づき事業を家庭や地域社会と手を結び、創意工夫しながら事業を展開しています。

地域を構成するあらゆる人々が参画し「誰もが住み慣れた地域で、安心して生活のできる地域福祉」を目指して実践する民間の福祉団体です。

福祉 やつちゆう？

県内にお住まいの
外国人にお伺いしました



呂善榮さん
(大韓民国出身)

私は、ソウルとプサンの間の小さな農村の出身ですが、若者が都会へ流出したり、農業が衰退してきているなど、青森に似た問題を抱えています。青森の人も家族を大事にしますが、韓国では、広い家族のつながりがある、家族でホームページもち、親類の集まりの予定を伝え合ったりしているんです。

日本に来て驚いたことは、政治への関心が低いことです。韓国では、みんなが政治に口をはさみたり、さらに「じよつぱり」なんです。反日感情を高める教育やメディアの影響もあり、戦争の歴史を忘れられない人も多いですが、日本のマンガやドラマの影響で関心を持つ人も多くなりました。

日本人は歴史的なことを知らない人が多いこともあり、純粋に韓国に興味を持ち、親しくしてくれる人が多いと思います。ワールドカップの開催や観光など、それぞれの国への関心は高まっています。戦争は同じく悲しいことだという認識から、新たな日韓関係を築けるといいなと思います。

(県環境生活部国際課国際交流員)

青森県福祉人材センター



福祉人材センター・バンクでは、福祉の職場で働きたいと考えている方のために、求職の相談・就職斡旋をしています。

◇開設時間 8:30～17:00 (土・日・祝祭日は休み) ※青森のみ第2・第4土曜日開設 (10:00～16:00) します。

◇求人情報テレホンサービス Tel 017-731-1111

◇福祉の仕事・職種・資格のホームページ <http://www.shakyo.or.jp/hot/>

「福祉の仕事がしたい」という方のための研修会

ホームヘルパー養成研修2級課程

介護業務従事希望者が対象の講座です。現在、介護業務についている方および学生は、対象外となります。

- 青森県福祉人材センター 平成14年5月13日～7月22日
 - 弘前福祉人材バンク 平成14年6月3日～7月19日
 - 八戸福祉人材バンク 平成14年5月21日～7月2日
- } とともに22日間

応募方法

4月14日(日)付け、東奥日報、デーリー東北、陸奥新報をご覧ください。

ご相談・
お問い合わせは、

青森県福祉人材センター TEL 017-777-0012
弘前福祉人材バンク TEL 0172-36-1830
八戸福祉人材バンク TEL 0178-47-2940

「月刊ぜんかれん」購読のお知らせ

財団法人全国精神障害者家族会連合会で発行している「月刊ぜんかれん」は、毎月様々な特集を組んで、わかりやすく役立つ情報を掲載しています。年間購読料4,200円。申込み・問合せ 電話03-3845-5084 郵便振替00150-3-5600



心で聴こう 子どもの言葉 心で観よう 子どもの姿

5月5日～11日は児童福祉週間です。

児童福祉の理念は、「すべての国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、かつ育成されるよう努力しなければならない」（児童福祉法第1条）とうたわれています。

この理念の普及のため児童福祉週間が定められ、幅広い階層の参加と子どもたちが積極的に参加できる行事が各地の公民館や児童館等で様々に計画されます。この週間に児童が健やかに育つ環境について考えてみたり、各地で実施される活動にご家族で参加してみてもいいのではないでしょうか。

県社協から

● ご協力ありがとうございました (1～2月分)

■ 青森県善意銀行

- 株式会社キノシタ様からのお預りを
県内の母子・父子世帯へ 学習机10台贈りました。
- 社団法人全日本生命保険外務員協会青森県協会様からのお預りを
乳児院及び児童養護施設へ タオル1,500枚贈りました。
- 青森県立浪岡養護学校様からのお預りを
県ボランティアセンターへ 寄付金等を贈りました。

青森県善意銀行は、多くの方々の善意をお預かりして、社会福祉施設や民間団体へお届けしています。

募金などの金銭のほかに、使用済切手や図書などの物品、観劇や映画の招待券やおそばやお寿司などの施設への出張供応、理髪や修理等の技術やレクリエーション等の指導など、さまざまな善意をお預かりして、あなたの目的に合う施設や団体へ配分いたします。

善意を生かしたいとお考えの方は、お電話いただくか、県社協へ直接お越しください。

こんなお手伝いできます！ ～あつふるハート～

Dさん一家は、生活保護世帯の3人家族でそのうち母親と子供1人が知的障害を持っています。Dさんは金銭感覚がなく、お金が入るとすぐに使ってしまう。お金の使い方さえ、管理できればもっと、いい暮らしができるのになあ？そうだな、社協でこんな家族を助けてくれる制度があつたなあ。

(E町民生委員児童委員 Fさんからの相談)



青森県地域福祉権利擁護センターでは、このような障害を持つ家族の福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等を支援し、障害者が地域で安心して暮らせるようお手伝いします。

連絡先 電話 017-721-1362

■ 発行所

〒030-0822 青森市中央三丁目20番30号
県民福祉プラザ2階

社会福祉法人 青森県社会福祉協議会

TEL017 (723) 1391 FAX017 (723) 1394

http://www.infoamori.ne.jp/aosyakyo/

E-mail:aosyakyo@infoamori.ne.jp

■ 印刷所

株式会社コーセイ印刷

ホームページでも「福祉のひろば」がご覧いただけます。



今回は、みなさんの行動力と活動のバラエティさにとっても感動させられました。座談会の予定時刻より2時間早く来ていただいた司会の柏谷さんは、とても熱い人で、忙しいはずなのに、さらに忙しく行動力を発揮して、幅広く活動をしている様子で、「ひまな一市民」として、大いに反省させられました。(Y.K)

お詫びと訂正 「福祉のひろば」No.3 6ページ 私から一言の「工藤行雄」さんは、正しくは「工藤行男」さんでした。また、文中「田名邊先生」は「田邊先生」の誤りです。お詫びして訂正いたします。